

## 2 1. 未利用資源（モヤシサイレージ）を利用した 豚の低コスト肥育技術の確立

農林水産研究指導センター畜産研究部豚・鶏チーム

○稲垣 望・後藤雅昭・仁田坂俊輔・志村英明

### 【はじめに】

飼料コスト低減と地域未利用資源の利用促進を目的とし、モヤシ残渣を活用したモヤシサイレージの給与が肥育後期豚の発育に与える影響を調査し、飼料コスト低減と収益向上を目標とした最適な混合割合を検討した。また、モヤシ残渣を利用し飼料中の CP 含有率を下げ必須アミノ酸を添加することで、適切な発育と尿中の窒素含有率の低減について検討した。

### 【材料および方法】

試験 1：モヤシサイレージを最大給与できる混合割合の検討

一般配合飼料にモヤシサイレージを重量比で 65%、45%、20%の割合で混合した試験飼料を用いて肥育試験を実施した。各試験区および対照区、各区 3 頭（去勢、LW または WL）を用いて、不断給餌・自由飲水とし、平均体重 70kg から開始し、終了平均体重が概ね 110kg で出荷し、発育、採食量、肉質、食味および経済性を調査した。

試験 2：低 CP 飼料による尿中窒素含有率低減の検討

一般配合飼料にモヤシサイレージを重量比で 35%混合し、CP 濃度を配合飼料に対して 3%下げて、不足する必須アミノ酸（Lys, Met, Cys, Thr）を飼料中のアミノ酸要求量の充足率を満たすように添加した。低 CP 飼料区・対照区、各区 3 頭（去勢、LW または WL）を用い、不断給餌・自由飲水とし、平均体重 70kg から開始し、終了平均体重が概ね 110kg で出荷し、発育、採食量、尿中窒素含有率を調査した。

### 【結果および考察】

1. モヤシサイレージを 20%混合給与したところ、発育成績、枝肉成績、肉質成績および食味性に有意な影響は無く、粗収益が 7.1%、採食量は 23.6%増加した。モヤシサイレージを 45%以上給与した区の枝肉成績は、対照区と比べ、背厚や歩留まりが低下する傾向が見られた。
2. 試験区は対照区に比べ、発育や枝肉重量、背厚は有意な差は無く、歩留まり及び尿中窒素濃度は有意に低下した。

以上のことから、モヤシサイレージは一般配合飼料中に 20%以下の割合で肥育後期豚へ混合給餌することが望ましく、また、モヤシサイレージを活用した低 CP 飼料は尿中窒素濃度を低減する可能性が示された。